

はらひのことば
被 詞
(大被 詞)

ぜんはん
(前半)

たかまのはらにかむづまります すめみおやかみろぎ かみろみのみこともちて やほよろずのかみたちを
高天原爾神留坐須 皇親神漏岐 神漏美乃命 以氏 八百萬神等乎
かむつどへつどへたまひ かむはかりはかりたまひて あがすめみこのみことは とよあしはらのみずほのくにを
神集集賜比 神議 賜氏 我皇御孫之命 波 豊葦原乃水穗之国乎
やすくにとたひらけくしろしめせと ことよさしまつりき かくよさしまつりしくぬちにあらぶるかみどもをば
安国止平氣久所知食止事依志奉支 如此依志奉志國中爾荒振神等乎波
かむとはしにとはしたまひ かむはらひにはらひたまひて こととひしいはねこだくさのかきはをも ことやめ
神問志爾問志賜比 神掃爾掃賜氏 語問志磐根樹立草之垣葉乎毛語止
て あめのいわくらはなり あめのやえぐもをいづのちわきにちわきて あまくだしよさしまつりき
氏 天之磐座放 天之八重雲乎伊頭乃千別爾千別氏 天降依志奉支
かくよさしまつりしよものくになかと おほやまとひたかみのくにを やすくにと さだめまつりて
如此依志奉志四方之國中登 大倭日高見之國乎安国止定 奉氏
したついわねにみやばしらふとしきたて たかまのはらにちぎたかしりて すめみこのみことのみづの
下津磐根爾宮柱太敷立 高天原爾千木高知氏 皇御孫之命 乃美頭乃
みあらかつかへまつりて あめのみかげ ひのみかげとかくりまして やすくにとたひらけくしろしめさむくになか
御舍仕奉氏 天之御蔭 日之御蔭止隱坐氏 安国止平氣久所知食武國中
になりにて あめのますひとらが あやまちおかしけむくさぐさのつみごとは
爾成出武 天之益人等我 過 犯家牟雜々罪事波
あまつつみとは あはなち みぞうめ ひはなち しきまさ くしさし いきはぎ さかはぎ くそへ
天津罪止波 畔放 溝埋 樋放 頻時 串刺 生剥 逆剥 屎戸 許許太久
のつみをあまつつみとのりわけて
乃罪乎天津罪止法別氏

くにつつみとは いきはだだち しにはだだち しらひと こくみ おのがははをさせるつみ おのがこをさせるつみ
国津罪止波 生膚断 死膚断 白人 胡久美 己母犯罪 己子犯罪
ははとことをさせるつみ ことははとをさせるつみ けものをさせるつみ はふむしのわざはひ たかつかみの
母與子犯罪 子與母犯罪 畜犯罪 昆虫乃災 高津神乃
わざはひ たかつとりのわざはひ けものたふしましものせるつみ ここだくのつみいでむ

災 高津鳥乃災 畜仆志蟲物為罪 許許太久乃罪出武

かくいでば あまつみやこともちて おほなかとみ あまつかなぎをもとうちきり すゑうちたちて ちくら
如此出波 天津宮事以氏 大中臣 天津金木乎本打切 末打断氏 千座

おきくらにおきたらはして あまつすがそをもとかりたち すゑかりきりて やはりにとりさきて
置座爾置足波志氏 天津管曾乎本刈断 末刈切氏 八針爾取辟氏

あまつのりとのふとのりごとをのれ
天津祝詞乃太祝詞事乎宣禮

(注 右の四画の線で囲まれた部分は平常時は省略し、六月と十二月の大被式の時は全て奏上する)

かくのらば
如此乃良波

あまつかみはあめのいはとをおしひらきて あめのやえくもを いづのちわきにちわきてきこしめさむ
天津神波天之磐門乎押披氏 天之八重雲乎 伊頭乃千別爾千別氏所聞食武
くにつかみはたかやまのすゑ みじかやまのすゑにのぼりまして たかやまのいぼり みじかやまの
国津神波高山之末 短山之末爾上坐氏 高山之伊穗理 短山之
いぼりをかきわけてきこしめさむ
伊穗理乎搔別 所聞食武

かくきこしめしては すめみこのみことの みかどをはじめて あめのしたよものくには つみといふつみは
如此所聞食氏波 皇御孫之命乃朝廷乎始氏 天下四方国爾波 罪止云罪波
あらじと しなどのかぜのあめのやえくもを ふきはなつことのごとく あしたのみぎり ゆふべのみぎり
不在止 科戸之風乃天之八重雲乎 吹放事之如久 朝之御霧 夕之御霧
をあさかせゆふかぜの ふきはらふことのごとく おほつべにをるおほぶねを へときはなち ともときはなちて
乎朝風夕風乃吹掃事之如久 大津辺爾居大船乎舳解放 艦解放氏
おほうなばらに おしはなつことのごとく をちかたのしげきをもとを やきかまのとかまもちて うちはらふこと
大海原爾 押放事之如久 彼方之繁木本乎 焼鎌乃敏鎌以氏 打掃事
のごとく のこれるつみはあらじと はらひたまひ きよめたまふことを たかやまのすゑ みじかやまのすゑよ
之如久 遺留罪波不在止 被給比清給布事乎 高山之末 短山之末與
り さくなだりにおちたぎつ はやかわのせにます せおりつひめといふかみ おほうなばらに
里 佐久那太理爾落多支都 速川能瀬爾坐須瀬織津比賣止云神 大海原爾
もちいでなむ かくもちいでいなば あらしほのしほの やほぢの やしほぢのしほの やほあひにます
持出奈武 如此持出往波 荒塩之塩乃八百道乃八塩道之塩乃 八百会爾坐須
はやあきつひめといふかみ もちかかのみてむ かくかかのみてば
速開都比賣止云神 持可可吞氏牟 如此可可吞氏波

いふきどにます いふきどぬしといふかみ ねのくにそのくににいふきはなちてむ
伊吹戸爾坐須氣吹戸主止云神 根国底之国爾氣吹放氏牟
かくいふきはなちてば ねのくにそのくににます はやさすらひめといふかみ もちさずらひ
如此氣吹放氏波 根国底之国爾坐須 速佐須良比賣止云神 持佐須良比
うしなひてむ かくうしなひてば けふよりはじめて つみといふつみはあらじと はらへたまひ きよめたまふ
失氏牟 如此 失氏波 自今日始氏 罪止云罪波不在止 被給比清給布
ことを もろもろきこしめせとかしこみもまをす
事乎 諸所聞食止恐美恐美毛白須